

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
加藤・ダニエラ
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
<p>日陰の外へ：西洋在住の現代日本女性作家・美術家における「はざま」から見る風景の再評価</p> <p>Out of the Shadows: Reclaiming the “In-Between” Landscapes of Contemporary Japanese Women Writers and Visual Artists Living in the West</p>
3. 助成額
20万円
4. 実施期間
2017年8月 ～ 2018年4月
5. 実施状況
<p>申請書にも述べたように、プロジェクトの第一段階として、私はこの研究の対象となっている女性芸術家たちのさまざまな人生経験、旅行、風景、創作活動、材料、思考に内側から触れ、彼女たちの作品の理解を深めてきた。その方法として彼女らに一連のインタビューを実施した。作品についての情報があまり多くはなく、それゆえに、直接に話を聞くことがより重要である比較的に無名なアーティストたちからそれを行った。第一回目は、米国在住の2名のビジュアル・アーティストのインタビューを実施した。まず、2017年6月30日、京都市にて、美術家である加藤ミミとのインタビュー。加藤氏はオハイオ州クレーブランド在住だが、奈良県出身であり、休暇で日本に滞在中に京都市にてインタビューを行った。次に、2017年8月6日～7日、オハイオ州イエロー・スプリングにある本人自宅にて、インスタレーションアーティストであるミギワオリモとのインタビューを実施した。第二回目としては、9月にイギリスのケントにて英国在住の陶芸彫刻家であるタカキミドリ、およびロンドンにてイラストレーターのセキナツコとのインタビューを行った。この時、私は2017年9月6日、英国のシェーフィールド・ハーラム大学にて実施されたThe Association for the Study of Literature and the Environment (UK and Ireland)の国際学会にて、第一回目のインタビューに基づく発表を行った。この発表のタイトルは“Uncertain territories, spectral geographies: Contemporary Japanese women visual artists living in the West”である。2017年10月から2018年4月までは、今までのインタビューのテープ起こしを行いながら、入手した情報をまとめて将来的に一冊の本とするための準備を行った。</p> <p>現在、第三回目のインタビューを2018年5月～9月、ヨーロッパにて実施を予定し</p>

ている。対象としている方は、フランス、パリ在住の美術家である金子菜生、及びドイツ、ベルリン在住の画家・彫刻家であるイケムラレイコである。また、2018年7月7日に京都学園大学にて実施予定のアジア系アメリカ文学研究会にて、本プロジェクトに関する発表を準備中である。発表のタイトルは“Performing life visually: memory, language and landscape in two contemporary Japanese-American women visual artists”である。そして、今年の間までに、これまでのインタビューを本の中に組み入れるための企画書を出版社に渡す予定である。

6. 事業成果と自己評価

どのような文化的、地理学的な、そしてジェンダーにおける国境が、また、どのような東洋と西洋の国境横断的な風景が、彼女たちの人生に関係し、その作品のテーマや材料をなしてきたのかという研究当初の疑問について、私が実施したインタビューによって理解をより深めることができた。また、本人がフェミニストであるという自覚がなくても、また、西洋に基盤を置く日本人芸術家たちの伝統に属しているという自覚が一切なくても、その女性アーティストたちの中に存在するフェミニスト的思考が推測される多くの表現について私の理解を広げることができた。ただ、私がインタビューを実施した日本人アーティストの見解は多様で、それらの日本人アーティストの作品と、世界中の国境を横断する他のアジアの女性アーティストたちの作品とを関連させることが必要であるとの考えに至った。そのような研究によってのみ初めて、脱国境的なフェミニスト批評に基づき、国境を横断し、地域とグローバルな問題の中で模索する女性たちの作品を批判的に考察するというこのプロジェクトの最終的な目的を達成できると感じている。つまり、竹村フェミニズム基金が可能としてくれたインタビューをさらに他のアジアの女性アーティストたちに拡大することがこのプロジェクトの次のステージである。